

# 北陸農政局長賞受賞

えっちゅうごかやますがぬましゅうらくほぞんけんしょうかい  
○越中五箇山菅沼集落保存顕彰会（富山県南砺市）

合掌造り家屋として昔から景観を変えることなく、歴史的建築物の保護が継続されている集落では、合掌造りの屋根材となる茅（コガヤ）の採取する森（「合掌の森」）を所有、管理してきていたが、昭和40年代に入り戸数の減少、高齢化により十分な管理ができなくなり、平成7年にユネスコ世界遺産に登録された史跡を次世代に引き継ぐためにも茅の自給率向上を必須の課題と位置づけ、集落住民による「越中五箇山菅沼集落保存顕彰会」が中心となり合掌の森再生に向けての取組を始めた。

全住民の参加による茅場管理の勉強会の開催からスタートし、平成12年度に中山間地域等直接支払制度の活用により、集落や水田等の環境整備を行うことで集落の結束力や維持機能が強化され、更に世界遺産保全のためには新たな合力（コーリヤク）が必要との判断から、平成23年度に県の中山間地域チャレンジ支援事業による「合掌の森再生プロジェクト」として、住民と行政、都市住民、企業、大学等が連携して合掌集落の保護と次世代への継承、地域振興に向けた取組が開始された。

会では、平成25年度に「合掌の森再生協議会」を発足させ、農林水産省の都市農村共生・対流総合対策交付金を活用し、都市と農村の交流支援、古茅を活用した商品開発や五箇山在来の赤かぶ、かぼちゃなどの栽培とこれらの加工品のブランド販売に取り組むなど、里山の資源を活用した取組は地域特産物の生産振興、住民の所得確保にも寄与している。

また、世界遺産登録等を契機に観光客の増加が顕著となり、土産・飲食店等を集落内に新設したことにより雇用の場が確保され、Uターン等の若者が増加していることを受け、会では後継者育成として若手会員の拡充に取り組んでおり、更には女性が中心となった花いっぱい運動も展開している。



菅沼集落



茅刈り体験



五箇山かぼちゃ



合掌の森 PROJECT



大学との連携プロジェクト